



☆ 教育のご要望の真意

こんにちは!澤村です。バンクーバーオリンピックが終わりましたね。なんか、終わると寂しいですね。職場で利用者様と応援していた方も多かったのではないのでしょうか。特にフィギュアなんかは。感動でしたね。あの精神力の強さはどこから出てくるのだろう?? と気の小さい私は、そんなところを感じながら見ていました。

さて、今年に入ってからありがたいことに各福祉協会、施設さんから講師派遣の依頼が来ています。2月だけでも5ヶ所からご依頼がきました。その中には新しく開設するためのオープニング研修の企画立案も飛び込んできました。

そこで、印象深かったとある施設さんの話を紹介いたします。初心に戻れるような研修をお願いしたいと依頼がありました。話を聞くと「給与も悪くない。休みも多い。福利厚生もいいのでうちは定着率が非常に良いんですよ」「働きやすいので5、6年以上勤務している人がほとんどなんです」

私…(良いじゃないですか。何が問題なんだろう??)

「慣れが出て、その慣れがご利用者、ご家族に悪い影響を及ぼしているんですよ。緩慢になってきてしまって苦情も最近多くなりました」と本当に困っておられる様子でした。

(なるほど、それで初心に戻る研修ということだったんだ。)と理解いたしました。

そこで、“**境遇**”をおすすめいたしました。この境遇に関しては、気持ちを初心に戻してくれる非常に良い研修だと自負しております。なぜか、やる気も引き出してくれる講義なんです。

お蔭様で所内研修が決定しました。モチベーション低下のために重大なことが起らないうちに早めに教育をするということは重要です。教育業を行っているからではありません。

介護職は人と人とが触れ合う素晴らしい仕事だからこそなんです。

◆おすすめ文庫◆

今号のおすすめは、“笑う介護。”です。小茂田から借りて読みました。表題は、笑うと出ていますが文章にすると笑えない話なのです。がそれを笑い飛ばすような感じで書いています。内容は、父が若くして認知症に。母は卵巣ガンで闘病生活に。犬も介護状態に。主人公の娘は、介護と看病と仕事をしながら心労のあまり心療内科をさまよう日々。岡崎家のツライ日々を前向きにとらえた。漫画&エッセイ&小説となっています。

私自身も父が脳梗塞で2回倒れて

います。一人娘ということで、もし、母が倒れたらどうしよう…。と切実に思ってしまいました。ただ、この岡崎家の娘の杏里さんの奮闘ぶりがおもしろく明るく書いてあります。お父さんのショートステイ話やお母さんの豪快さもおもしろいです。

現実には、過酷だと思いますが、題どおり笑う介護。になっています。文庫本サイズなので持ち運びが楽ですし、読みやすいです。ちなみに“わんこも介護”という本も出しています。“続・笑う介護。”という題でブログも作者は書いています。



成美堂出版 著者:岡崎杏里